



伝統と新しさが溶け合う街・神楽坂。路地裏には江戸情緒が残り、さらに話題の新店も続々登場しています。この神楽坂マップを手にゆったり散策、お買い物やご飲食をして、素敵なひと時をお楽しみください。

店名は各店舗の業種別以下にの通り色分けしてあります。
■ 飲食 ■ 茶 ■ サービス ■ その他 ■ 緑

● 神楽坂通り商店会PC用 ホームページ
<http://kagurazaka.in>

マップ内の歴史に基づき解説は、新宿区郷土研究会発行「神楽坂界隈」(1997年)と2004年に郷土研究会 水野正雄氏に得た訪を参考にまとめた。

神楽坂まね知識

【神楽坂の始まり】
今の神楽坂通りがそれらしくなったのは、寛永5年(1633)年に大老酒井氏が失来に屋敷地を拝領。その後、大老の屋敷道路として整備が進み、今の神楽坂の原型ができたそうです。

【神楽坂の由来】
この坂で、神が祭でる神楽の音が聞こえ、手掛かりに探してみたいと由来します。

【神楽坂の老舗】
江戸時代創業の店も数店あります。明治・大正時代からの店は10店以上あります。建物は改築しているので難しくかもしれませんが、名前や雰囲気を手掛かりに探してみたいと由来します。

神楽坂若宮八幡神社

神楽坂若宮八幡神社は、1999年に現在の形になりました。社名の由来は、江戸城を守る意味を持つ方向にあります。境内には昔からの井戸が残っています。毎年12月の第一日曜日に、とりの遊園公園で行われる「花市」はすっかりお馴染みとなりました。

神楽坂若宮八幡神社

神楽坂(ゆかり)は、徳川家三代将軍・参勤交代、ここに伝い梅枝があり、中国の梅の名所「大寒」になんて名付けられた急坂です。

神楽坂若宮八幡神社

四季折々、一年を通して楽しんでいただける神楽坂ですが、桜の季節は特にお勧め！ 鹿沙門天満宮の桜や、筑士八幡神社の桜のトンネルが皆さんをお迎えします。飯田橋と市ヶ谷を結ぶ外堀の桜も見事です。桜の名所である千鳥ヶ淵や増田神社までも元気に10～15分で歩いていきます。歩き疲れ

▲桜を眺めながら鹿沙門前にお参り ▲水面に映る桜が美しい千鳥ヶ淵